

令和8年度

阿南第一中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校環境づくり・授業づくりの継続
- ②自主学習ノートの内容を工夫した家庭学習の充実

校長

影田 博徳

学力向上推進員

委員 校長:影田博徳 教頭:森口貴彦▼教務:遠藤佳代 学年主任:谷賀治、西村正雄、山尾純子
数学主任:日下翔、国語主任:高野俊一郎 英語主任:長地千景 研修主任:太田健

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

授業の互見期間を実施する。授業のわかりやすさに関する生徒アンケートの実施

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業に前向きに取り組み、ノート整理などにおいて積極的である。 ●国語、英語における長文の読解力に課題が見られる生徒が多い。	・各教科における基礎的・基本的な知識・技能が確実に身についている。 ・国語、英語における語彙が身についている。基本的な計算技能が身についている。	・授業の終わりに本時のふり返しを行う。 ・徳島県学力向上確認プリントを各授業内で実施する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習の流れ、学習活動が明確に示されている場合、高い集中力で思考できる生徒が多い。 ●長文読解において、多くの情報の中から必要な情報を拾い選択する力が乏しい面が見られる。	・答えを導き出した根拠を振り返り、思考過程を説明することができる。 ・文章量が多い作品の中から理解しにくい言葉を調べるなど、読解のための努力ができる。	・授業の「めあて」「ふり返し」「流れ」を生徒活動カードで明確に示す。 ・タブレット端末、ホワイトボードなど「自分の考えをまとめる」ツールを固定化し、意識付けを行う。 ・知識だけでなく、論理的な思考力や集中力が身につくよう定期的に読書の時間を設ける。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習環境のユニバーサルデザイン化が定着し、学習環境には落ち着きが見られる。学習活動によっては主体性が見られる生徒が増えている。 ●家庭での生活習慣が確立されていない生徒が見られ、集中力、やる気が継続しにくい生徒も見受けられる。	・ユニバーサルデザイン化された落ち着いた学習環境を自分たちで作ることができる。 ・「学習の楽しさ」を理解し、自分と向き合って学習に取り組むことができる。	・生徒会活動の中に教室、学習環境のユニバーサルデザイン化への自発的な取り組みを盛り込み、生徒が主体的に環境づくりを行う組織作りを行う。 ・授業者のスキルアップを「ふれあい授業」の定期的な実施によって目指す。 ・自主学習ノートの内容を共有し、家庭学習への意欲を喚起する。			